

## 避難所訓練 実施記録

日 時:平成25年12月15日(日)10:00~16:00

場 所:アイパル香川 3階大会議室・中2階交流フロア

この回のねらい:

- ・香川県で起こり得る災害や避難所の場所等について、正しい知識を得ることで、適切な行動ができるようになる。
- ・避難所の雰囲気を感じ、活動を体験しておくことで、災害時に安心して避難所に行くことができる。
- ・過去の震災時（阪神淡路大震災、東日本大震災等）に、外国人住民が置かれていた状況や問題について知ることで、日頃から備えておくべきことは何かを考える。

参加者:計13カ国 66名

(内訳:中国26名、フィリピン15名、ベトナム6名、インドネシア4名、ネパール4名、台湾1名、ペルー1名、韓国1名、ポーランド1名、ニジェール1名、ブラジル1名、ルーマニア1名、日本4名)

### ◆開会挨拶 公益財団法人香川県国際交流協会 安藤事業課長

パワーポイントで英語・中国語の翻訳文を見せながら、訓練の目的等について、やさしい日本語で説明。

### ◆香川の災害を知ろう！～災害の「みえる化」は、あなたと家族と救う～

(特活)日本防災士会香川県防災士会 林 宏年(はやし ひろとし)氏

#### 【内容】

- ・地震ってどんなもの？
- ・香川でどんな災害が起きる？  
どんな災害？  
被害はどれくらい？  
どう行動したらいい？
- ・ハザードマップを見てみよう！
- ・避難所は、どんなところ？
- ・避難所はどこにある？



#### ○地震ってどんなもの？

世界に11あるプレートのうち、日本は4つのプレート(ユーラシアプレート、北アメリカプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレート)の上にある。世界的にも非常に稀なことで、これが原因で日本は地震が起きやすい。

フィリピン海プレートが動いた場合、東日本大震災規模の地震が起こる可能性がある。ただし、香川県には瀬戸内海があるため、直接的な被害はない。地震が起きると、ビルや古い木造建築物が倒れたり、多くの怪我人を出したりする可能性もある。地震が起きて、数時間後に津波が起きる。津波は、



地盤が弱い所を中心に発生する。

香川にも大きな被害をもたらすことが予想される南海地震は、フィリピン海プレートが動いて起きる。その被害は、マグニチュード9.0～9.1、震度6弱から7。予想死亡者数は、多くて3,500人、けが人は、20,000人、3%の家が壊れる。津波の高さは、3～5m。

○香川で、どんな災害がおきる？

香川県の場合、緊急地震速報が鳴ってから、約30秒後に揺れが起きる。その時に、いろいろな準備をしておかないと、大きなけがをしてしまう。家の中では、固定していない家具が倒れてくる。築30～40年以上の家は、倒れる恐れがある。海の近くに住んでいる人は、津波が来る前に、液状化が起こる。液状化が起きると、地盤沈下で道路が壊れ、通れなくなる可能性もある。さぬき市の奥では、ため池が危険。まだ、ため池のハザードマップはできていない。山の麓に住んでいる人は、土砂崩れが起こる可能性もあるので注意が必要。

●地盤振動による家屋倒壊

古い家は崩れるが、コンクリートは残る。古い木造建築に住んでいる人は特に気をつける。極力、古い家に住まないようにすること。頑丈な家でも、家具を固定していないと、崩れて、逃げ道がなくなる可能性もあるので、注意が必要。

特に危険性の高い、震度6強及び、震度7の揺れでは家が倒れたり、人が怪我をしたりする。観音寺、東かがわ市、三豊市では大きな被害が出る可能性がある。家具を固定する道具として突っ張り棒があるが、それだけでは不十分なので、家具の下にジェルも敷いたほうがよい。丸亀で実験した時には、ジェルを敷いた場合は震度7でも大丈夫だった。ガラスにラップを貼ると、割れた時に破片が飛び散らず安全。戸棚の取手を針金で留めておくと、中身が飛び出るのを防ぐことができる。

●津波災害

香川県では、約5mの津波が来る可能性がある。さぬき市、三豊市は遠浅の湾になっているので危険。遠くに逃げられない人は、3階以上の鉄筋コンクリートの建物で、外に階段がある建物、を家の近くで探しておく。そこに逃げると

**2.香川で、どんな 災害が おきる？**  
 おおきい 地震(じしん)が おきた あとに・・・

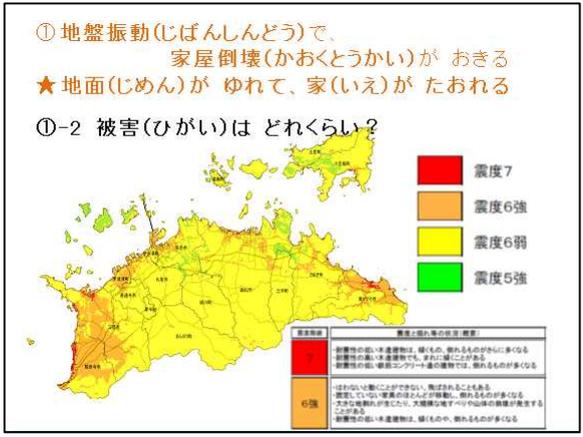
①地盤振動(じばんしんどう)で、家屋倒壊(かおくとうかい)がおきる  
 ★地面(じめん)が ゆれて、家(いえ)が たおれる

②津波(つなみ)がくる  
 ★はやくて たかい 波(なみ)がくる うみの ちかく

③液状化(えきじょうか)がおきる  
 ★地面(じめん)から 水(みず)が でてきた あと、地面(じめん)が さがって、道(みち)が こわれる

④ため池(ためいけ)の 堤防(ていぼう)が 決壊(けっかい)する  
 ★ため池(ためいけ)が こわれて、みずが たくさん ながれる

⑤山(やま)で 斜面崩壊(しゃめんほうかい)がおきる どこでも  
 ★やまが ぐずれる



① 地盤振動(じばんしんどう)で、家屋倒壊(かおくとうかい)がおきる  
 ★地面(じめん)が ゆれて、家(いえ)が たおれる

①-3 どうしたらいい？

突っ張り棒(ぼう)  
家具(かぐ)が たおれません。

針金(はりがね)、ラップ  
ガラス(がらす)が われても、とびません。



助かる。そういったビルがない地域の人には、近くでもいいので高い所に逃げる。山の斜面に逃げると、地震で斜面が崩れることがあるが、崩れる可能性がある場所はずでにシミュレーションをして分かっている。

### ●地盤液状化被害

次は液状化。液状化というのは、たくさんのお水を含んだ砂が、揺れることで水と砂に分離すること。もともと海や川だった場所にある、建物や道路は危険。ビルが液状化で倒れたりする。液状化で人は死なないが、逃げられなくなることもある。車で逃げようと思っても、道路に砂や水が出ていると逃げられないので、避難する時には、車を使わないようにする。

### ●急傾斜地斜面の崩壊

山沿いでは、勾配のきつい斜面や崖が崩れることがある。山沿いに住んでいる人は注意しないと巻き込まれる恐れがある。どこの斜面が崩れやすいか分かっているので、必要であれば教える。ただ高い場所に逃げればいいのかではなく、安全な場所に逃げるのが重要。

3年前の東日本大震災のときも、地震が来てすぐに逃げた人は助かったが、逃げずにそのまま家にいたり、途中で物を取りに帰ったりした人は、たくさん亡くなっている。地震の後30分くらいすると、まんのう町などではため池が決壊する。地震が起きて、90分～4時間の間に香川県沿岸では大小の津波が起こる。

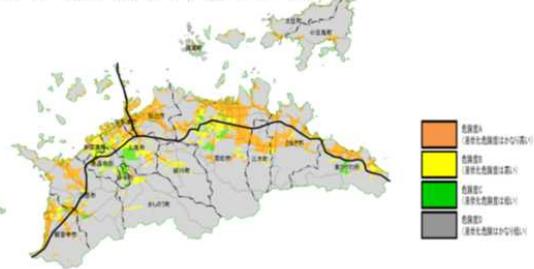
災害が起こって一番危ないものは、自分自身の中にある油断である。地震が起こって津波が来るまで十分時間があるので、油断をしてしまう。自分は、そういう災害にあわないという誤解は絶対にしない。香川に10年、20年と長く住んでいたら必ず災害にあう。

○ハザードマップを見よう！

震度6強、7の地域、津波の浸水の深さが1m以上の地域に住んでいる人は注意が必要。高松に住んでいる人は、HPに避難ビルが載っている。赤で囲ってある地域に住んでいる人は、すぐに逃げないと危険。それ以外の人には、津波の高さ等によって逃げ方が違う。

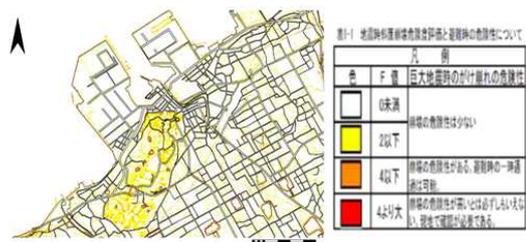
③ 液状化(えきじょうか)が おこる  
★地面(じめん)から 水(みず)が でてきた あと、地面が さがって、道(みち)が こわれる

③-2 被害(ひがい)は どれくらい？



⑤ 山(やま)で 斜面崩壊(しゃめんほうかい)が おこる  
★やま が くずれる

⑤-2 被害(ひがい)は どれくらい？



## 2.どんな 災害(さいがい)が おこる？ どうやって にげたら いい？



## 3.ハザードマップを みてみよう！

安全(あんぜん)な 避難所(ひなんじょ)【津波避難(つなみひなん)ビルなど】は、どこにある？



まず、家の近くの高いビルなどに逃げて、身の安全を確保する。揺れや津波が収まってきたら、広域避難場所に逃げる。

○避難所はどんなところ？

広域避難場所は、皆さんがしばらく生活できるスペースや、食糧、通信手段などがある。災害に既にあった人、これからあう可能性がある人が利用できる。日本の場合国籍は関係ない。家が壊れたりしていなくても、電気や水道が止まってしまった場合にも利用できる。ここでは、安全に生活するスペースと、医療サービスを受けられる。また、安否情報も分かる。災害が起こった次の日には、こういった避難場所はできている。

4. 避難所(ひなんじょ)は、どんなところ？	
だれが はいることができる？	どんな サービスがある？
①災害(さいがい)ですでに 被害(ひがい)にあった ひと ②災害で、これから 被害にあう かもしれない ひと ③家(いえ)にいて、被害にあって、家で 生活(せいかつ)している ひと ④被害があつた ばしょではない ところへ うつた ひと ⑤家にかえるのが むずかしい ひと	つけられる サービスなど (1) 安全(あんぜん)・生活(せいかつ) ①安全(あんぜん)に 生活(せいかつ)すること ができる ②水(みず)・食べ物(たべもの)を もらうことが できる ③生活(せいかつ)する ばしょを もらうことが できる (2) 保健(ほけん)、医療(いりょう)、衛生(えいせい) ①病気(びょうき)や けがを しない ②きれいな ばしょで 生活(せいかつ)することが できる (3) 情報(じょうほう)、コミュニティ ①情報(じょうほう)を もらうことが できる ②ひとと いっしょに 生活(せいかつ)すること ができる

出典 避難所管理運営指針(平成26年版)兵庫県

○避難所はどこにある？

各市町が発行している避難所マップを配布する。自分の会社や家の近くが載っているマップを見て、どこにあるか探す、次にそこから近くて安全な避難所はどこか、場所を確認する。

○机の下に隠れてみよう！

香川で地震が起こった想定で、緊急地震速報のTV映像を流し、以下の内容をアナウンス。

緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。  
 次の地域では、強い揺れに警戒してください。  
 高知県、徳島県、香川県、愛媛県…



参加者に机の下に潜り、頭を守るように、指示。

机の脚をしっかり持って、そのまま約 30 秒～1 分間待つ。

⇒揺れがおさまったという想定で、避難所のある会場へすみやかに避難(移動)。



◆避難所を体験しよう！

(特活) 日本防災士会香川県防災士会 久保 雅和(くぼ まさかず)氏

【班分け】 8班(英語3、中国語3、やさしい日本語2)に分かれる。各班に防災士を1名ずつ配置。

【物資・分配数】

《居住スペース》

- ・ダンボールパーテーション 2 枚、結合プラグ 3 個、毛布 3 枚 [各班ごと]

《ダンボルトイレ制作》

- ・ダンボール箱 2 箱 (or ダンボール 1 箱、バケツ)、カッター1個、ゴミ袋 2 枚、レジ袋 3 枚、養生テープ 1 個、ガムテープ 1 個、新聞紙 2 枚、油性マジック 2 本 [各班ごと]
- ・軍手 [人数分]

《非常食》

- ・水、アルファ米(白米、わかめ、五目)、サバ缶、箸、紙皿 [人数分]
- ・魔法瓶 1 本(お湯)、ラップ1箱、ぞうきん1枚、ウェットティッシュ1箱、ティッシュペーパー1箱 [各班ごと]

《ハイゼックス》

- ・ハイゼックス袋 2 枚、水 1 本、米 2 合、輪ゴム 2 本、計量用の紙コップ 1 個 [各班ごと]

《非常持出品》

- ・非常持出袋1セット [各班ごと]

### ①メンバーの紹介

- ・香川県防災士会久保会長より防災士 13 名の紹介
- ・各班で自己紹介
- ・リーダー、サブリーダーの決定  
リーダーに赤テープ 2 本、サブリーダーに赤テープ 1 本を腕に貼る。



### ②物資の分配

- ・リーダーとサブリーダーが、ステージ上に並べてある物資を取りに行く。まず、班ごとに決められた数のダンボールパーテーション等を運ぶ。その後、防災士に班の人数を伝え、その分だけの食事等をもらい、班員に分配する。



### ③非常食の準備

- ・ハイゼックスの説明をパワーポイントで受けながら、班ごとに作ってみる。(各班 2 袋ずつ)  
スタッフが別室で 20 分程度茹でる。
- ・各自、アルファ米、水に油性マジックで名前を書く。
- ・アルファ米にお湯を入れ、15 分程待つ。



#### ④ダンボールパーテーションの設営と片づけ

- ・防災士の指示に従い、各班全員で協力しながら設営する。
- ・パーテーション内に荷物を置いたり、毛布を敷いて寝転んだりして、スペースを実感する。
- ・設営時と同様に片づける。



#### ⑤非常食を食べる

- ・繰り返し使えるよう、紙皿にラップを敷き、その上にご飯を盛る。
- ・アルファ米、サバ缶、ハイゼックスで作った米を食べる。



#### ⑥ダンボールトイレの制作

- ・防災士のパワーポイント上の説明に従い、ダンボールでトイレを作る。

- ・実際の災害時を想定して、どこに設置するか、どこに処理場をつくるかを班内で話し合う。



- ⑦共同生活の  
・想定される  
ペットを連  
寒いときに  
怪我人がで  
⇒ビニール袋



した防寒法、固定法について知る。

ルールを考える

トラブルを班内で話し合う。

れている人がいたらどうするか。

どうするか。

たらどうするか。

や新聞紙、ストッキング等、身近な物を利用

- ⑧非常持出品を考える

- ・各班の防災士から非常持出袋の中身の紹介、実際に体験する等、非常持出袋について知る。
- ・各班で、非常持出袋の中身以外の自分・家族の状況に合わせた必要なもの考える。



#### ◆講演

「災害時における外国人住民の現状について～災害時に備え、日頃から準備しておくこと～」

(特活)多文化共生マネージャー全国協議会 時光(とき ひかる)氏

#### 【内容】

- ・災害時、外国人はどんな状況になるのか。(阪神淡路大震災や東日本大震災などの経験から)
- ・災害から自分や家族を守るために日頃から何をすればいいのか。
- ・災害時だけでなく、日頃から協力できることは何か。

講師自身も中国出身であり、これまで、新潟中越沖地震と、東日本大震災の際、被災地の外国人支援に携わってきた。日本で暮らしていくには、必ず地震と付き合いなければならない。

東日本大震災時、仙台国際交流センターは、仙台市災害時多言語支援センターとして活動を行っていた。災害の



情報は日本語でしか提供されないが、多言語支援センターでは、日本語が話せない人を支援してくれていた。

ある日、多言語支援センターに、どうしてもドイツ語が話せるスタッフと話がしたいという、ドイツ人女性が2人来た。ドイツ語を話せるスタッフがいなかったため、大使館に電話した。女性たちはドイツ語で話せたことで安心して、その後の表情も変わった。最初は英語も聞き取りにくい話し方だったが、電話の後は流暢になった。危ない時や、大きなショックを受けるような出来事の後には、後から勉強した言葉は出てこなくなることがある。緊急時は、その人にとって分かりやすい言葉、体で覚えている言葉でコミュニケーションをとる必要がある。

今回の避難所体験は楽しかったかもしれないが、実際の避難所は怖いところである。会社がつぶれた人、家族が亡くなった人などがいて、避難所に入ると怖い雰囲気を感じた。もちろん避難所にいるのは、外国人ばかりではない。日本語が分からない人は、新聞やテレビ、避難所の掲示版を見ても理解できないので、iPhoneなどで海外の報道を見ていた。

Q:海外での報道はどうなっていたか。東日本大震災の後、日本以外の報道を見て、どう思ったか。

A1:東日本大震災の直前に、日本に留学することにした。しかし、その時国内のテレビを見て、とても怖くて留学を止めようと思っていた。日本人の先生にいろいろ意見を聞くと、大丈夫そうだと言われたので日本に来ることを決めた。(中国福建省出身)



A2:その時イギリスにいたので、イギリスのBBCの報道を見た。日本と比べてBBCは、福島で起こっていることを中心として紹介していた。(イギリス出身)

当時の日本政府のニュースは大丈夫だから落ち着いてと報道していた。でも海外のテレビは、福島の原発はかなり危ない、津波で家ごと流されるなど、激しいニュースがほとんどだった。

災害時の日本語は、普段使っているよりもさらに難しい。行政からの情報には普段使わない言葉が多い。避難所、炊き出し、高台、注意報、警報等。「電車はフツウです」と聞くと、「不通」ではなく、日頃よく使う「普通」を連想し、「通常通り動いている」と間違った理解をしてしまう。



被災地では、外国人だけではなく、日本人も、難しい言葉で言われるとわからない。見やすく書き直した掲示物(翻訳をつける、文字を大きくする、イラストをつける等)を避難所に持って行ったところ、日本人の聴覚障害者からも感謝された。避難所には、いろいろな人がいるので、配慮が必要である。

阪神淡路大震災時、兵庫県内には約8万人の外国人が住んでおり、その内約2万人が「非日本語話者」だった。兵庫県人口に占める外国人の割合は1.8%だが、死者数に占める外国人の割合は3.2%であっ

た。外国人は、災害時に二重被害を受けやすいのだが、それは誰もが困ること以外に外国人特有の問題があるからである。例えば、自分の国で防災について勉強したことがないこと、日本人と持っている情報の量が大きく違うことなどが挙げられる。たとえ通訳がいても人数が少ないので間に合わない。膨大なニュースが流れる中、翻訳できるのはほんの一部であり、1秒の油断もできない状況の中で、通訳を待ってられないのが現状である。普段の生活でも、外国人だからこそ困る問題(言葉がわからない、日本人の知り合いが少ないなど)はたくさんあるが、災害時はなおさら増える。

災害時そのような問題を軽減するために、まず自分がより困りやすい立場にあることを認識しておかなければならない。また、日頃からたくさんの日本人といい関係がもてるよう努力したり、何かあった時は助けを求めただけではなく、自分も協力したりする姿勢が大切である。

#### ◆ふりかえり

A1:時 光氏、A2:久保 雅和氏、A3:林 宏年氏

#### ○みんなで話そう

- ・今日参加してよかったこと
- ・家に帰ったら、こんなことしようかな
- ・質問

#### <質疑応答>

Q1:国際電話はどこでかけられるのか。

A1:公衆電話の中で国際電話がかけられるものがある。

公衆電話のすべてではないが、灰色の電話ボックスで国際電話がかけられる。阪神淡路と、東日本大震災の時には、避難所に無料の国際電話が作られた。

Q2:大きな地震が起こった時に、家の中で一番安全なところはどこか。

A3:構造上強いのは、トイレや風呂場など、壁と壁が近い所。上から落ちてくるものがないところが安全。その他は家によって変わってくる。

A2:マンションに住んでいる人は、緊急地震速報を聞いたらすぐに、玄関のドアを開ける。地震でドアがゆがんだら、開かなくなってしまう。

Q3:夜中寝ている時に地震が起こったら、そのまま家にいるのと、すぐ外に逃げるのと、どちらが安全か。

A3:いる場所で違う。崖の下やため池の近くに住んでいるのであれば、すぐに逃げる必要がある。自分の家を防災マップで確認して判断する。

A2:寝ている時に地震が来たら、緊急地震速報に気付かないこともあるので、揺れが収まるまで布団をかぶっておく。その後、ガラスを踏んでけがをしないように、布団や服を床に敷いて、玄関まで逃げる。夜は真っ暗で、どこに何があるか分からなくなるので、寝室に靴底の厚い靴と、ライトを置いておく。

Q4:日本語学校までの道のりで、木で作った建物が多い。もし、自転車で学校に通っている時に地震が来たら、どこに逃げればいいのか。安全な建物が分からない。



A3: 商店街の近くは昔川だったので、液状化が起きるかもしれない。特に、狭い道は液状化が起きる可能性が高い。

Q4: 高松の地下道は安全か？

A3: 地下道は地震の時にはそれ程危なくない。

Q5: 工場で一番安全な所はどこか。丸亀の海の近くで、大きな機械がたくさんある。

A3: 液状化が起きる可能性が高い。基礎が深く作られている建物の近くは比較的安全。建物の中であれば、太い柱の近くが安全。

#### <感想>

日本に来る前は考えたことがなかったが、日本では地震や災害を必ず経験する。今日は、避難所の体験ができ、非常食も食べられたのでとてもよかった。特に、面白かったのは避難所で使うトイレの作り方が分かったことである。参加して良かった。(ベトナム出身)

